

令和元年度業務実績報告書 正誤表

公立大学法人 青森県立保健大学

修正前 頁	修正後 頁	見出し、中期計画 No.	誤	正
-	-	目次	<ul style="list-style-type: none"> <li>□ 法人の概要 1</li> <li>□ 全体評価（全体的実施状況） <ul style="list-style-type: none"> <li>（1）業務の実施状況について 7</li> <li>（2）財務その他の状況について 9</li> <li>（3）その他 9</li> </ul> </li> <li>□ 項目別実施状況 <ul style="list-style-type: none"> <li>1 教育研究等の質の向上に関する目標を達成するための計画（教育） 10</li> <li>2 教育研究等の質の向上に関する目標を達成するための計画（研究） <u>52</u></li> <li>3 教育研究等の質の向上に関する目標を達成するための計画（地域貢献） <u>57</u></li> <li>4 業務運営の改善及び効率化に関する目標を達成するための計画 <u>68</u></li> <li>5 財務内容の改善に関する目標を達成するための計画 <u>73</u></li> <li>6 教育及び研究並びに組織及び運営の状況について自ら行う点検及び評価並びに当該状況に係る情報の提供に関する目標を達成するための計画 <u>78</u></li> <li>7 その他業務運営に関する重要目標を達成するための計画 <u>86</u></li> <li>8 予算（人件費の見積りを含む。）、収支計画及び資金計画その他の計画 <u>89</u></li> </ul> </li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>□ 法人の概要 1</li> <li>□ 全体評価（全体的実施状況） <ul style="list-style-type: none"> <li>（1）業務の実施状況について 7</li> <li>（2）財務その他の状況について 9</li> <li>（3）その他 9</li> </ul> </li> <li>□ 項目別実施状況 <ul style="list-style-type: none"> <li>1 教育研究等の質の向上に関する目標を達成するための計画（教育） 10</li> <li>2 教育研究等の質の向上に関する目標を達成するための計画（研究） <u>55</u></li> <li>3 教育研究等の質の向上に関する目標を達成するための計画（地域貢献） <u>60</u></li> <li>4 業務運営の改善及び効率化に関する目標を達成するための計画 <u>71</u></li> <li>5 財務内容の改善に関する目標を達成するための計画 <u>76</u></li> <li>6 教育及び研究並びに組織及び運営の状況について自ら行う点検及び評価並びに当該状況に係る情報の提供に関する目標を達成するための計画 <u>82</u></li> <li>7 その他業務運営に関する重要目標を達成するための計画 <u>90</u></li> <li>8 予算（人件費の見積りを含む。）、収支計画及び資金計画その他の計画 <u>93</u></li> </ul> </li> </ul>

修正前 頁	修正後 頁	見出し、中期計画 No.	誤	正
12	12	2 学生募集方策の検討及び実施 ① 高大連携の継続実施	<p>・・・ (略) ・・・</p> <p>(2) 模擬講義(出張講義)等は、高校側からの要請に積極的に応じ、令和元年度実績は 31 校 39 講座を実施し、昨年度並みの実績となった。(内訳：青森市内校 5 校、市外校 18 校、北海道・北東北高 8 校)</p> <p>模擬講義の実施の際は、高校側のねらいを確認し、それに沿った対応を心がけて実施し、専門職を目指すきっかけ作りに協力できた。</p>	<p>・・・ (略) ・・・</p> <p>(2) 模擬講義(出張講義)等は、高校側からの要請に積極的に応じ、令和元年度実績は 31 校 39 講座を実施し、昨年度並みの実績となった。(内訳：青森市内校 5 校、市外校 18 校、北海道・北東北高 8 校)</p> <p>模擬講義の実施の際は、高校側のねらいを確認し、それに沿った対応を心がけて実施し、専門職を目指すきっかけ作りに協力できた。<u>令和元年度の受講対象者の内訳は、全学科対象 7 校、3 学年対象 1 校、2 学年対象 9 校、1 学年対象 3 校、2・3 学年対象 4 校、1・2 学年対象 7 校であった。</u></p>
14	14	2 学生募集方策の検討及び実施 ③ 学生募集活動の継続実施	<p>エ 進学相談会の実施</p> <p>「入学者志望動機アンケート調査」(平成 31 年 4 月実施)の結果によると、「企業が主催する進学相談会で本学の情報を得た」と回答した学生が対象者 224 人中 7 人とかなり少なかったことから、進学相談会の実施計画を見直して実施した。進学相談会の実施状況については、今年度計画したすべて下記のとおり実施した。</p> <p>・・・ (略) ・・・</p>	<p>エ 進学相談会の実施</p> <p>「入学者志望動機アンケート調査」(平成 31 年 4 月実施)の結果によると、「企業が主催する進学相談会で本学の情報を得た」と回答した学生が対象者 224 人中 7 人とかなり少なかったことから、進学相談会の実施計画を見直して実施した。<u>調査結果で回答が多かったのは、大学案内「LIVE」が 152 人、本学ホームページが 143 人、オープンキャンパス・ミニオープンキャンパスが 100 人であった。</u></p> <p>進学相談会の実施状況については、今年度計画したすべて下記のとおり実施した。</p> <p>・・・ (略) ・・・</p>
20	20	5 健康科学部共通教育の展開 ② 職業観・ヒューマンスキルの育成	<p>ア 職業観を育成するものとして、各学科が学生に向けて特別講義を企画して実施した。看護学科は、看護師に望まれる態</p>	<p>ア 職業観を育成するものとして、各学科が学生に向けて特別講義を企画して実施した。看護学科は、看護師に望まれる態</p>

修正前 頁	修正後 頁	見出し、中期計画 No.	誤	正
			<p>度について患者体験をした歌手から、理学療法学科は理学療法学法の今後の展望について留学経験のある教員から、社会福祉学科は、子育て支援について NPO 法人代表者から、栄養学科は患者協働の医療について推進する社会福祉法人の代表理事から講義いただいた。今後のキャリアの視野を広げる機会となった。</p> <p>・・・</p> <p>(略)</p> <p>・・・</p>	<p>度について患者体験をした歌手から、理学療法学科は理学療法学法の今後の展望について留学経験のある教員から、社会福祉学科は、子育て支援について NPO 法人代表者から、栄養学科は患者協働の医療について推進する社会福祉法人の代表理事から講義いただいた。今後のキャリアの視野を広げる機会となった。<u>各講義の参加者数は、看護学科 2～4 年生対象 90 人参加、理学療法学科 3 年生対象 30 人参加、社会福祉学科 1～4 年対象 195 人参加、栄養学科 1～4 年生対象 44 人参加であり、概ね想定どおりであった。</u></p> <p>・・・</p> <p>(略)</p> <p>・・・</p>
21	21	<p>6 専門教育の推進 ①看護学科</p> <p>② 移行教育の実施と評価</p>	<p><u>(1) 移行教育の評価</u></p> <p>学生から社会人への移行に必要な、「社会人基礎力」と「レジリエンス」について継続調査を行った。調査結果に基づき、日常的な教授活動でロールプレイやディスカッションを意識的に取り入れた。この結果本年の調査では、1 および 2 年生は主体性・創造力が向上し、着実に大学生として力をつけていた。3 年生は主体性・実行力・課題発見力・柔軟性・ストレスコントロール力などが上昇しており、発展的な学習や実習が主体なり、自分でコントロールする力や他者と協力して乗り切る力がついたと考えた。4 年生は計画力・創造力・状況把握力が高くなり、<u>実習や</u>就職活動、国家試験勉強への取り組みの中で、自己管理をする力が高められたと考えた。レジリエンス力も概ね 4 学年とも上昇しており、多様な状況に対応できるしなやかさが育まれていると考えられた。以上のことから、現行のカリキュラムをはじめとした移行期教育プログラムは、</p>	<p><u>看護師として就業する直前の移行教育として行ってきた卒業前看護技術習得プログラムは、前期から学生と教員がチームを組んで、ニーズ調査、企画、資料作成、演習準備を行っていたが、3 月上旬に実施を予定していたことから、新型コロナウイルス感染予防のため、やむなく中止とした。この代わりに、<u>実習室を開放し、密集を避けて自己演習できる環境整備を整えた。</u></u></p> <p>学生から社会人への移行に必要な、「社会人基礎力」と「レジリエンス」について継続調査を行った。調査結果に基づき、日常的な教授活動でロールプレイやディスカッションを意識的に取り入れた。この結果、本年の調査では、1 および 2 年生は主体性・創造力が向上し、着実に大学生として力をつけていた。3 年生は主体性・実行力・課題発見力・柔軟性・ストレスコントロール力などが上昇しており、自分でコントロールする力や他者と協力して乗り切る力がついたと考えた。4 年生</p>

修正前 頁	修正後 頁	見出し、中期計画 No.	誤	正																												
			<p>看護学科が目指す人材育成に適しているものと判断された。</p> <p><u>本調査を継続し、教学マネジメントとして、プログラム評価を行っていく。</u></p> <p><u>(2)卒業前看護技術習得のためのプログラム</u></p> <p><u>採血・注射・膀胱カテーテル留置法・ECG等4年生が希望する看護技術を取り入れ、プログラムを企画し準備したが新型コロナウイルス感染予防のため、中止とした。</u></p>	<p>は計画力・創造力・状況把握力が高くなり、<u>正課学習以外にも</u>、就職活動、国家試験勉強への取り組みの中で、自己管理をする力が高められたと考えた。レジリエンス力も概ね4学年とも上昇しており、多様な状況に対応できるしなやかさが育まれていると考えられた。以上のことから、現行のカリキュラムをはじめとした移行期教育プログラムは、看護学科が目指す人材育成に適しているものと判断された。<u>看護学科が独自に行っている教学マネジメント手法であり、本学の教育の有効性の一端が証明されたと言えた。</u></p>																												
27	28	10 大学院生の研究推進（博士前期課程） ③ 研究成果の地域社会への還元	<p>4月のガイダンスや修士論文の中間発表会等において、研究成果の社会への還元について意識付けを行った結果、研究科全体で8件の報告があった。このうち博士前期課程では、学校保健教育の新たな取り組みにつながる研究成果が1件あった。</p> <p>[地域への具体的成果の還元件数] (件)</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>年度</th> <th>H26</th> <th>H27</th> <th>H28</th> <th>H29</th> <th>H30</th> <th>R1</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>件数</td> <td>3</td> <td>3</td> <td>2</td> <td>2</td> <td>10</td> <td>8</td> </tr> </tbody> </table>	年度	H26	H27	H28	H29	H30	R1	件数	3	3	2	2	10	8	<p>4月のガイダンスや修士論文の中間発表会等において、研究成果の社会への還元について意識付けを行った結果、研究科全体で8件の報告があった。このうち博士前期課程では、学校保健教育の新たな取り組みにつながる研究成果が1件あった。</p> <p>[地域への具体的成果の還元件数] (件)</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>年度</th> <th>H26</th> <th>H27</th> <th>H28</th> <th>H29</th> <th>H30</th> <th>R1</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>件数</td> <td>3</td> <td>3</td> <td>2</td> <td>2</td> <td>10</td> <td>8</td> </tr> </tbody> </table> <p><u>このうち、博士前期課程のみの件数は、平成26年度：1件、平成27年度：1件、平成28年度：2件、平成29年度：2件、平成30年度：4件（修了後1年以内は2件）、令和元年度：1件（修了後1年以内は2件）であった。</u></p>	年度	H26	H27	H28	H29	H30	R1	件数	3	3	2	2	10	8
年度	H26	H27	H28	H29	H30	R1																										
件数	3	3	2	2	10	8																										
年度	H26	H27	H28	H29	H30	R1																										
件数	3	3	2	2	10	8																										
30	31	11 大学院生の研究推進（博士後期課程） ③ 研究成果の地域社会への還元	<p>4月のガイダンスや修士論文の中間発表会等において、研究成果の社会への還元について意識付けを行った結果、研究科全体で8件の報告があった。このうち博士前期課程では、学校保健教育の新たな取り組みにつながる研究成果が1件あった。</p> <p>[地域への具体的成果の還元件数] (件)</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>年度</th> <th>H26</th> <th>H27</th> <th>H28</th> <th>H29</th> <th>H30</th> <th>R1</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>件数</td> <td>3</td> <td>3</td> <td>2</td> <td>2</td> <td>10</td> <td>8</td> </tr> </tbody> </table>	年度	H26	H27	H28	H29	H30	R1	件数	3	3	2	2	10	8	<p>4月のガイダンスや修士論文の中間発表会等において、研究成果の社会への還元について意識付けを行った結果、研究科全体で8件の報告があった。このうち博士前期課程では、学校保健教育の新たな取り組みにつながる研究成果が1件あった。</p> <p>[地域への具体的成果の還元件数] (件)</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>年度</th> <th>H26</th> <th>H27</th> <th>H28</th> <th>H29</th> <th>H30</th> <th>R1</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>件数</td> <td>3</td> <td>3</td> <td>2</td> <td>2</td> <td>10</td> <td>8</td> </tr> </tbody> </table>	年度	H26	H27	H28	H29	H30	R1	件数	3	3	2	2	10	8
年度	H26	H27	H28	H29	H30	R1																										
件数	3	3	2	2	10	8																										
年度	H26	H27	H28	H29	H30	R1																										
件数	3	3	2	2	10	8																										

修正前 頁	修正後 頁	見出し、中期計画 No.	誤	正
				<u>このうち、博士後期課程のみの件数は、平成 26 年度；2 件、平成 27 年度；2 件、平成 28 年度；0 件、平成 29 年度；0 件、平成 30 年度；6 件、令和元年度；7 件であった。</u>
34	36	14 授業評価等による教育方法の改善 ① 授業改善アンケート、ピア評価及び FD 研修会の継続実施	<p>・・・ (略) ・・・</p> <p>(1) 全学FD 実施日：3月3日(火) テーマ①：「本学教員評価について —新旧評価表の 違い、留意事項について—」 講 師：本学 鈴木副学長 テーマ②：「2019 年度 PROG テストの全体傾向報告」 講 師：米田光明氏(株式会社リアセック)</p> <p>(2) 研究科FD 実施日：7月26日(金) テーマ：「地域の公衆衛生人材育成に資する大学院 のあり方 —公衆衛生大学院の新たな可能 性と課題—」 講 師：京都大学大学院医学研究科 中山健夫教授</p> <p>(3) 学科FD ・看護学科① 実施日：5月8日(水) テーマ：「カリキュラム評価のための学習会」 講 師：本学 上泉学長 ・看護学科② 実施日：1月31日(金) テーマ：「看護学教育を評価する」</p>	<p>・・・ (略) ・・・</p> <p>(1) 全学FD 実施日：3月3日(火) テーマ①：「本学教員評価について —新旧評価表の 違い、留意事項について—」 講 師：本学 鈴木副学長 テーマ②：「2019 年度 PROG テストの全体傾向報告」 講 師：米田光明氏(株式会社リアセック) <u>参加者：72 人</u></p> <p>(2) 研究科FD 実施日：7月26日(金) テーマ：「地域の公衆衛生人材育成に資する大学院 のあり方 —公衆衛生大学院の新たな可能 性と課題—」 講 師：京都大学大学院医学研究科 中山健夫教授 <u>参加者：29 人</u></p> <p>(3) 学科FD ・看護学科① 実施日：5月8日(水) テーマ：「カリキュラム評価のための学習会」 講 師：本学 上泉学長 <u>参加者：33 人</u></p>

修正前 頁	修正後 頁	見出し、中期計画 No.	誤	正
			<p>講 師：本学 上泉学長</p> <p>・理学療法学科</p> <p>実施日：10月19日（金）</p> <p>テーマ：「総合臨床実習前後の社会的スキルとストレス対処能力の変化」</p> <p>講 師：理学療法学科 勘林准教授</p> <p>・社会福祉学科</p> <p>実施日：12月13日（金）</p> <p>テーマ：「ヒューマンケアの視点に立った保健・福祉の総合教育について」</p> <p>講 師：佐久大学 副学長 佐藤嘉夫氏</p> <p>・栄養学科</p> <p>実施日：1月20日（月）</p> <p>テーマ：「栄養士法の成り立ち・歴史から考える養成教育」</p> <p>講 師：弁護士 早野貴文氏</p> <p>(4) マネジメントセミナー <u>(2月14日(金))</u></p> <p>テーマ：青森県健康福祉部との連絡会議</p>	<p>・看護学科②</p> <p>実施日：1月31日（金）</p> <p>テーマ：「看護学教育を評価する」</p> <p>講 師：本学 上泉学長</p> <p><u>参加者：35人</u></p> <p>・理学療法学科</p> <p>実施日：10月19日（金）</p> <p>テーマ：「総合臨床実習前後の社会的スキルとストレス対処能力の変化」</p> <p>講 師：理学療法学科 勘林准教授</p> <p><u>参加者：13人</u></p> <p>・社会福祉学科</p> <p>実施日：12月13日（金）</p> <p>テーマ：「ヒューマンケアの視点に立った保健・福祉の総合教育について」</p> <p>講 師：佐久大学 副学長 佐藤嘉夫氏</p> <p><u>参加者：11人</u></p> <p>・栄養学科</p> <p>実施日：1月20日（月）</p> <p>テーマ：「栄養士法の成り立ち・歴史から考える養成教育」</p> <p>講 師：弁護士 早野貴文氏</p> <p><u>参加者：15人</u></p> <p>(4) マネジメントセミナー</p> <p><u>実施日：2月14日(金)</u></p> <p>テーマ：青森県健康福祉部との連絡会議</p> <p><u>出席者：31人</u></p>

修正前 頁	修正後 頁	見出し、中期計画 No.	誤	正
48	51	23 学生へのキャリア支援の充実 ② 就職対策	<p>・・・ (略) ・・・</p> <p>ウ 就職先決定要因調査結果の分析</p> <p>H30 年度就職先決定要因調査の分析結果について、県内就職者の4位に「休暇が取れる」が入り、「専門分野が活かせる」が6位に下がった。昨年同様「安定性がある」が1位であることから、県内就職者はよりワークライフバランスを重視している。県外就職者は入れ替わりはあるものの、過去3年を見ても上位5項目変わらず、教育制度や職場環境を重視して選んでいる。</p>	<p>・・・ (略) ・・・</p> <p>ウ 就職先決定要因調査結果の分析</p> <p>H30 年度就職先決定要因調査の分析結果について、県内就職者の4位に「休暇が取れる」が入り、「専門分野が活かせる」が6位に下がった。昨年同様「安定性がある」が1位であることから、県内就職者はよりワークライフバランスを重視している。県外就職者は入れ替わりはあるものの、過去3年を見ても上位5項目変わらず、教育制度や職場環境を重視して選んでいる。<u>調査結果の詳細については、以下のとおりである。</u></p> <p><u>&lt;県内就職者&gt;</u></p> <p><u>1位：安定性がある</u></p> <p><u>2位：職場の雰囲気・人間関係が良い</u></p> <p><u>3位：自分がやりたい仕事内容である</u></p> <p><u>4位：休暇がとれる</u></p> <p><u>5位：新人に限らず継続的なプログラムがある</u></p> <p><u>&lt;県外就職者&gt;</u></p> <p><u>1位：職場の雰囲気・人間関係が良い</u></p> <p><u>2位：新人への教育計画が充実している</u></p> <p><u>3位：新人に限らず継続的なプログラムがある</u></p> <p><u>4位：安定性がある</u></p> <p><u>5位：自分がやりたい仕事内容である</u></p>

修正前 頁	修正後 頁	見出し、中期計画 No.	誤	正
75	78	45 管理運営経費の抑制 ② 運営経費の抑制	<p>本学の主要委託業務である警備・設備保全業務、清掃業務、植栽業務は3年間の複数年契約とすることで、運営経費の抑制を図っている。</p> <p>令和元年度は、労務費増の影響による委託料の増加により、主要3業務委託費の合計では、目標値を4.5%上回った。</p> <p>&lt;3業務委託費&gt; (税抜)</p> <p>(令和元年度実績) 58,668千円</p> <p>(目標値) 56,155千円</p> <p>(目標値との差額・率) 2,513千円・4.5%</p>	<p>本学の主要委託業務である警備・設備保全業務、清掃業務、植栽業務は3年間の複数年契約とすることで、運営経費の抑制を図っている。</p> <p>令和元年度は、労務費増の影響による委託料の増加により、主要3業務委託費の合計では、目標値を4.5%上回った。</p> <p>&lt;3業務委託費&gt; (税抜)</p> <p>(令和元年度実績) 58,668千円</p> <p>(目標値) 56,155千円</p> <p>(目標値との差額・率) 2,513千円・4.5%</p>

(円、税抜き)													
	目標値 (H23~25平均値)	H26	目標対比	H27	目標対比	H28	目標対比	H29	目標対比	H30	目標対比	R1	目標対比
警備及び設備等保全業務	35,333,333	35,945,833	1.7%	35,945,833	1.7%	35,945,833	1.7%	36,840,000	4.3%	36,840,000	4.3%	36,840,000	4.3%
清掃作業等業務委託	16,061,000	15,980,000	△0.5%	15,980,000	△0.5%	15,980,000	△0.5%	16,800,000	4.6%	16,800,000	4.6%	16,800,000	4.6%
植栽業務委託	4,761,054	4,000,000	△16.0%	4,000,000	△16.0%	4,833,333	1.5%	4,833,333	1.5%	4,833,333	1.5%	5,028,570	5.6%
合計	<b>56,155,388</b>	<b>55,925,833</b>	△0.4%	<b>55,925,833</b>	△0.4%	<b>56,759,166</b>	1.1%	<b>58,473,333</b>	4.1%	<b>58,473,333</b>	4.1%	<b>58,688,570</b>	4.5%